

2018年2月11日

## 福音書からのメッセージ

ペトロが口をはさんでイエスに言った。  
「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」  
(マルコによる福音書9章5節)

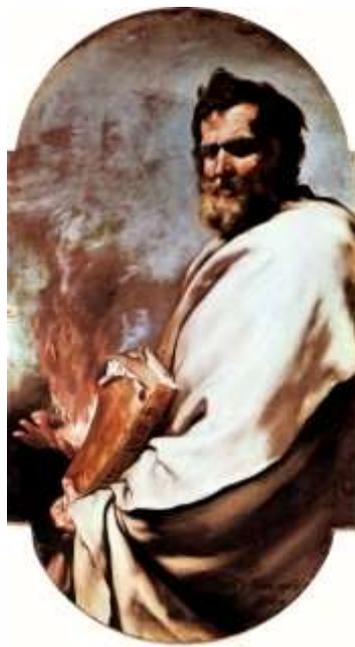
教会では今週の水曜日に大斎始日を迎え、大斎節に入ります。この大斎節をどのように過ごすか、それはわたしたちの信仰生活にとって、とても大きな意味を持ちます。

この大斎節に、意識したいことがあります。それは、イエス様がどのように十字架への道を歩いていかれたかを思い起こすということです。イエス様の十字架の苦難を思い、その歩みを心に留めていくのです。

今日の福音書には、イエス様がペトロとヤコブとヨハネという三人の弟子だけを連れて、高い山に登った出来事が描かれています。その山の上でイエス様の姿が変わり、エリヤとモーセがあらわれてイエス様と語り合っていた場面を、三人の弟子たちは目の当たりにしました。三人の弟子たちは、自分たちもまた栄光に包まれていると思ったことでしょう。

わたしたちは信仰生活の中で、イエス様の栄光の中に自分も包み込まれる、そのような体験を幾度となくしてきたかもしれません。聖書の描写のようなダイナミックなことにはないにしても、光に包まれ、共におられるイエス様を感じたこともあったことでしょう。

「わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです」とペトロは言いました。そして、ずっとこのままでいたいとペトロは考えます。なぜなら今日の箇所直前に、イエス様はご自分が殺されることを予告していたからです。山を下ることは、十字



架の道を進むことを意味しました。ペトロはそうであってはならないと願います。そこで仮小屋を建てようと提案したのです。

しかしイエス様は、そのペトロの言葉には従いませんでした。イエス様は山を降ります。そして十字架の道を歩み続けます。栄光を捨て、山のふもと

にいる人たちと共にいるために。自分の力で山に登ることなどできない一人ひとりの元に寄り添うために、イエス様は山を下りられます。

わたしたちは幾度となく、神さまの栄光を見せられてきました。しかし聖書は、決してその栄光にとどまらず、イエス様と共に山を下りるようにと伝えます。それぞれ遣わされた場所に行き、イエス様に倣って歩いていくのです。

イエス様はどのように十字架に向かい、誰のために十字架につけられたのか。そしてその十字架の死は、わたしたちにとってどのような意味があるのか。そのことを考えたときに、わたしたちは何をすべきなのが示されているように思います。

栄光の中ではなく人々の間に下りて、伝えていきましょう。「大丈夫、イエス様はあなたのところにも来てくださいます」。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>